

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2110 号

Clinical outcomes and prognostic factors of chemoradiotherapy for postoperative lymph node recurrence of esophageal cancer

(食道癌術後リンパ節再発に対する化学放射線治療の成績と予後因子の評価)

川本 晃史 (かわもと てるふみ)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

食道癌根治手術後のリンパ節再発の治療法と予後因子に関して一定の見解はない。本研究では食道癌根治手術後のリンパ節再発に対する化学放射線療法(chemoradiation therapy:CRT)の有用性を明らかにするために、その成績と予後因子の評価を行った。2006年4月から2015年1月までにCRTを行った食道癌根治手術後リンパ節再発57例に対して遡及的に検討した。処方線量中央値は60 Gyであり、併用化学療法は5-fluorouracil+Cisplatin(FP)もしくはDocetaxel(DOC)であった。経過観察期間中央値は24か月であった。2/3/5年全生存期間はそれぞれ43.7/36.9/27.6%であった。全生存期間に対する予後因子についての単変量解析では併用化学療法がFPであること( $p=0.04$ )、リンパ節再発の数が単数であること( $p=0.027$ )、リンパ節再発が1領域( $p=0.0001$ )であることが予後良好であった。多変量解析では併用化学療法[hazard ratio (HR), 2.50; 95% confidence interval (CI), 1.23-5.07]とリンパ節再発の領域数(HR, 5.76; 95% CI, 1.22-27.12)が独立した予後因子であった。食道癌根治術後のリンパ節再発に対するCRTは約28%の症例で長期生存を認めた。併用化学療法がFPであること、もしくはリンパ節再発の領域数が単数であることが独立した予後良好因子であった。